

NATIONAL WAKASAWAN YOUTH OUTDOOR LEARNING CENTER

 国立若狭湾青少年自然の家

施設概要



海の道 若狭湾

～つながろう そこにあるのは海と山～



若狭湾自然の家とは

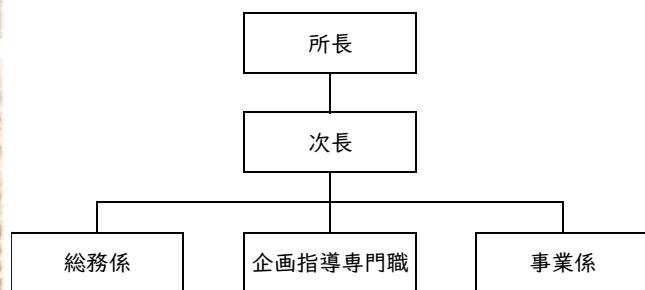
文部省（当時）は、学制百年記念事業の一環として、21世紀にはばたく少年たちに豊かな自然体験活動や、団体での宿泊生活体験の機会を提供するため、全国14か所に国立少年自然の家の設置を始めました。若狭湾少年自然の家は、その第9番目の施設として設置され、昭和59年4月から「国立若狭湾少年自然の家」としての受入れを開始しました。

その後、平成13年に国立少年自然の家は、独立行政法人に移行し、また平成18年には国立オリンピック記念青少年総合センターと国立青年の家、国立少年の家が統合され、独立行政法人国立青少年教育振興機構となった事で、当施設は独立行政法人国立若狭湾少年自然の家となりました。

施設は若狭湾国定公園のほぼ中央に突き出た黒崎半島の一画に位置し、前面には雄大な若狭湾とリアス式海岸特有の美しい景観が広がります。また、背後には標高300メートルの起伏に富んだ山野に恵まれ、豊かな自然環境は四季折々に見事な美しさをかもし出しています。

この豊かな大自然の中で、子供たちが仲間と一緒に宿泊し、海浜・海洋活動、自然探求・観察活動などを通じて、豊かでたくましい心と身体を育むために設けられた社会教育施設です。

組織図



沿革

昭和50年度	国立第9少年自然の家を福井県小浜市に設置することを決定
昭和54年度	学識経験者からなる国立少年自然の家創設調査協力者会議を設置し、施設整備に関する基本計画を策定
昭和56年～59年度	基本工事及び本体工事
昭和58年10月1日	文部省内に「国立若狭湾少年自然の家(仮称)設立準備室」を開設
昭和59年4月11日	文部省令の改正により「国立若狭湾少年自然の家」設置、現地において業務を開始
昭和59年9月1日	事業開始、宿泊定員200人でスタート(昭和60年7月20日から宿泊定員300人)
昭和60年10月6日	文部大臣の主催で開所式を挙行
昭和62年4月21日	海洋施設(艇庫・海浜用品庫)完成
昭和63年3月31日	フィールド・アスレチック施設完成
平成元年3月31日	勤労体験生産広場(夕日の広場)完成
平成元年4月22日	実利用者10万人突破
平成2年6月14日	野外活動用避難小屋(ふれあい山荘)完成
平成3年12月15日	海岸遊歩道(なぎさ遊歩橋)完成
平成4年8月7日	実利用者20万人突破
平成6年5月31日	第2キャンプ場(岩の沢キャンプ場)完成
平成6年10月25日	開所10周年記念式及び記念モニュメント除幕式を挙行
平成7年9月13日	実利用者30万人突破
平成8年5月13日	屋内多目的活動施設(トビーホール)完成
平成8年8月6日	自然観察施設完成(島の越ログハウス1棟・ログキャビン2棟・自然観察小屋2棟)
平成9年3月31日	ボランティア棟完成
平成10年7月31日	砂浜整備事業完成
平成11年4月26日	実利用者40万人突破
平成12年3月31日	宿泊棟等冷房設備完成
平成12年6月30日	島の越海岸遊歩道完成
平成13年3月31日	タイドプール完成
平成13年3月31日	多目的学習室(海の学習棟)完成
平成13年4月1日	独立行政法人国立少年自然の家に移行
平成14年7月24日	実利用者50万人突破
平成15年2月28日	生活研修棟・宿泊棟内部改修・厨房施設改修
平成15年7月22日	温水シャワー室完成
平成16年10月29日	開所20周年記念式を挙行
平成18年4月1日	独立行政法人国立青少年教育振興機構に移行「国立若狭湾青少年自然の家」に名称変更
平成18年5月15日	実利用者60万人突破
平成21年6月1日	実利用者70万人突破
平成23年3月15日	宿泊棟空調設備他改修
平成25年2月21日	実利用者80万人突破
平成26年11月14日	開所30周年記念式を挙行
平成28年2月28日	実利用者90万人突破
平成30年8月30日	実利用者100万人突破

ご利用案内

ご利用できる団体

成人又は青年の引率責任者を定め、あらかじめ具体的な活動計画を持った2人以上で構成される下記のような団体がご利用になれます。

- 幼稚園 保育所 小学校 中学校 高等学校 高等専門学校 短大 大学 専修学校等
- 子ども会 スポーツ少年団 ボーイスカウト ガールスカウト ○官公庁 企業 各種団体
- PTA 公民館 青年団 婦人会 老人会 ○家族 グループ 各種サークル

利用できない日

- (1) 年末年始(12月28日から1月4日までの間)
- (2) 施設等整備や安全点検などのため、ご利用になれない日があります。

禁止している事項

- (1) 特定の政党を支持、又はこれに反対するための政治教育その他の政治的活動
- (2) 特定の宗教を支持、又はこれに反対するための宗教教育その他の宗教的活動
- (3) 専ら営利を目的とする活動

お申し込み方法

- (1) 施設の空き状況は電話でお問い合わせいただくか、当青少年自然の家のホームページからご確認いただけます。
空き状況URL:<https://shinriyou.niye.go.jp/wakasawan/Vacancy/Index/> ★QRコード添付
- (2) ご予約はお電話にて受け付けます。(TEL.0770-54-3100 ※8:30 ~ 17:15)
- (3) 受付開始日
【25名以上の場合】 利用希望日の1年前の同月1日~同月14日
※学校教育団体・青少年教育団体に限り24名以下の場合でも上記に含まれます。
【24名以下の場合】 利用希望日の2ヶ月前の同日



ご利用料金

宿泊料金

青少年団体	300円 /1人	シーツ、枕カバーのクリーニング代として
一般団体 (企業など)	1,110円 /1人	上記クリーニング代+ 施設利用料金810円/1泊

食堂食料金

年齢区分	3食合計	朝食	昼食	夕食
3歳児以下	無料	無料	無料	無料
4歳以上	1,370円	380円	440円	550円
小学生	1,630円	450円	520円	660円
中学生以上	1,670円	460円	530円	680円

※6月1日以降入所団体から1割程度値上げいたします。
※上記以外にも野外炊事メニューやお弁当等も用意しております。

その他料金

特定研修活動実施経費、クラフト活動費(教材費)等活動によって料金が発生いたします。
※詳細はHPをご確認ください

施設紹介

名称		定員	名称		定員
宿泊棟	1号棟	78人	岩の沢キャンプ場	岩の沢野外炊事場	128人
	2号棟	67人		岩の沢ログハウス	80人
	3号棟	67人		岩の沢ログキャビン1	8人
	4号棟	67人		岩の沢ログキャビン2	8人
	5号棟	67人	島の越キャンプ場	島の越野外炊事場	96人
	6号棟	67人		島の越ログハウス	30人
生活研修棟	研修室1	90人		島の越ログキャビン1	8人
	研修室2	48人		島の越ログキャビン2	8人
	研修室3	48人		海の学習室	80人
	オリエンテーション室	100人	トビーホール		300人
	プレイホール	300人	ふれあい山荘		80人
				タ日の広場	80人



食堂



研修室1



宿泊2号棟



トビーホール

理念「海の道 若狭湾」

我が国本土の中央部に位置し、対馬暖流がもたらす豊かな山海の恵み、東アジアとつながる歴史・文化の玄関「若狭湾」。
海の道はここから全国、世界に続く。
海国の士気、青少年の生きる力を育み、未来を担う青少年の自立を図る。
そのために、豊かな自然環境、歴史・文化の資源を開発し、地域自然・観光資源とのネットワークを構築、地域の課題にも寄り添いながら、教育事業開発に取り組み、活気ある青少年教育施設を目指す。

所章



半円弧  は、若狭湾と文化CULTUREの頭文字C、 はWAKASAの頭文字で、リアス式海岸線を示している。

 は国立若狭湾青少年自然の家が設置された田島半島の地点を示すとともに、少年が両腕を海（日本海）に向かって大きく広げたくましく成長していくことを象徴しています。また、 の形は田島の鳥を現わし、この鳥は大陸から古代文化をいくたびか運んできた文化使節を示すものです。カラーはネイビーブルー

マスコットキャラクター



「トビー」
トビーは国立若狭湾青少年自然の家のキャラクターです。若狭の海をスイスイ飛び交うトビウオに子ども達の健やかな成長をたくしています。

トビーの妹「トビ子」もいるよ



交通案内

【電車利用】

JR小浜線 三方駅下車

JR小浜線 上中駅下車

JR湖西線 近江今津駅下車→JRバスに乗りし上中駅下車

三方駅・上中駅よりタクシー利用
(30分乗車 5,000円前後)

【自家用車利用】

敦賀方面から 若狭三方ICから約30分

滋賀県高島市方面から 近江今津より約60分

京都府舞鶴方面から 若狭上中ICから約20分



お申し込み・お問い合わせ先

国立若狭湾青少年自然の家

〒917-0198 福井県小浜市田島区（たがらすく）大浜
TEL 0770-54-3100 FAX 0770-54-3023 Mail wakasawan@niye.go.jp